

スギ花粉が飛び始めた2月下旬。本格的に花粉が飛散される前に山登りに行こうと計画。引越した関係で神奈川の山が近くなる。たまには神奈川の山に行ってみようと丹沢山系の地図を広げると、登ったことがない山がまだまだたくさんある。今回は高取山、仏果山、経ヶ岳の三つの山を縦走するコースに決める。標高はどれも750m以下の山だが、調べるとどこも展望がいいようである。登山口がいくつかあるようだ。一番タイムコースが短い登山口を選択。前日にバスの時間と乗り場を調べる。ゆっくりお昼も堪能しようとコッヘルも準備。

2月25日(土) 晴れ 6時47分武蔵新田駅出発

予定より1本早い電車に乗ることができる。電車を3回乗換え、小田急線の本厚木に8時03分着。本来なら8時40分発「宮ヶ瀬行きのバス」に乗り「仏果山登山口」で下車するはずだったが、「半原」というコースから入るルート「半原行きのバス」がバス停に停車していた。「宮ヶ瀬行きのバス」を30分以上待つなら、別ルートから登ってもいいかとせっかち精神で「半原行きのバス」に乗車。前方の席が運よく空いていたので座ることも出来た。乗車しているほとんどが登山者である。皆、仏果山登るのかな？と思っていたが、途中の「半増坊前」というバス停でほとんど下車してしまう。どうやら皆同じ団体の登山者のようだ……もしかして、仏果山目指しているのは私一人であろうか？

終点の手前「燃糸組合前」というバス停で下車。私一人か…とっていたら、バスからおじ様が一人降りてきた。出発の準備をしているとおじ様が話しかけてくる。「すみません、ここはじめてなもので、一人かと思ってちょっと不安でしたが、あなたがいらっしゃって安心しました」と。「よければ、途中までご一緒してもいいですか？」というので、おじ様(以下Aさん)と一緒に登山口を目指す。実はAさん、半原行きの別ルートのバスに乗るはずが、調度バスが来たので悩んだが、このバスに乗車したとのこと。「やっぱり調べたバスに乗車すればよかったな～、毎回山に行くと、来たのに乗ってしまうんです」と。話を聞くと、毎週日帰りどこかの山に登りに行っているとのこと。「すごい！羨ましい！」という私の反応に「いえいえ、体力づくりです」と笑顔で返答される。定年してから山登りを始めて3年目とのこと。毎週登っていれば、相当足腰は強くなっているはず。しかも定年後も平日はお仕事されているご様子。

<ポイント1>

半原燃糸

半原の燃糸業は、文化4年(1807年)小島紋右衛門が桐生(群馬県)から八丁式燃糸機を導入したのが始まりといわれている。現在の製造品目としては、主力製品の絹、合織縫糸をはじめ、各種繊維による織物、ニット用燃糸、産業資材用燃糸、ボディファッション縫製品などが生産されている。

沢よりや

この沢沿いの民家ではほとんどの沢に水車をかけ、その動力で燃糸機を回し糸を燃っていた。半原ではこうした場所を「沢よりや」と呼び、ここには板橋沢、入りの沢などの地名が残っている。町の郷土資料館(県立あいかわ公園内)には、古くから伝わる燃糸の工具などが、保存されている。

(環境省・神奈川県 標識参照)

(右手に半原神社を見ながら、
細い道を入れて行く→)





登山口となるゲートを目指して出発。
神社を右手に見ながら、細い道に入る。しばらく道なりにアスファルトの道を25分ぐらい進む。

9時10分 登山口となるゲートに到着
ここで仏果山に直接登るコースと高取山を経由して仏果山に登るコースに分かれる。Aさんは仏果山、経ヶ岳に登る計画であったが、私が高取山に登る計画を話すと「では、折角なので、ご一緒してもいいですか?」という訳で、今回はAさんと一緒に山登り。

(ゲート前。左に行くと仏果山へ)

ゲートをくぐり、高取山へ向かうコースへ。しばらく行くと川を渡ることになる。標識があるので見落とさないように!! 川を渡らず、そのまま舗装された道路をひたすら歩くとかなりの遠回りになるので注意。



(高取山へ向かうには一度川を渡る)



(鹿避けフェンス)

ここからひたすら樹林帯を登る。木道の階段があり、標識もこまめに設置されている。鹿の害から守るための、鹿避けフェンス(結構崩壊されていた)もあちこち設置されている。



10時15分 標高705m高取山に到着

高台があり宮ヶ瀬湖、丹沢山系が一望できる。この日は気温が高かったので、霞かかっていたがそれでも素敵な景色が一望できる。

景色を堪能しつつ、バスの中で食べ損ねた朝食のおにぎりをパクリ。温かいお茶を一口。一息ついて、仏果山を目指す。高取山から仏果山は地図上は30分。高取山からも仏果山の姿を見ることが出来る。



(高取山からみた仏果山)



(仏果山山頂近く)

ゆるやかなアップダウンで気持ちの良い稜線コースである。山頂直下はロープも設置されている。

11時15分 標高741.1m仏果山に到着

子供連れ、犬連れなど多くの登山者に賑わっている。再び展望台へ。

<ポイント2>

仏果山のいわれ

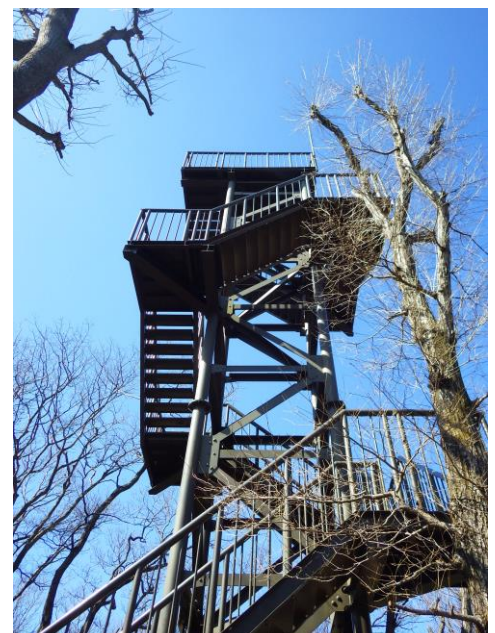
この山は、室町時代のはじめ、清川村煤ヶ谷にある正住寺(臨済宗鎌倉健長寺派)を開山した天鑑存円上人(仏果禅師)が、座禅修行をした山といわれている。天鑑存円上人が座禅したという座禅石は、いつの頃から煤ヶ谷側の仏果沢に落下してしまった。こうした由来から、この山の名を「仏果山」と呼ぶようになったという。(現在この座禅石は下の採石場わきにある)

また、この山は昔、煤ヶ谷の人々は南麓と呼び、半原超え(半原峠)から仏果山周辺までを南山と呼んだ。津久井町長竹・葎尾根などは半原富士と呼んでいた。(環境省・神奈川県 標識参照)

いい時間なのでお昼にしようと、私もAさんもそれぞれコッヘルを取り出し昼食の準備。持参したラーメンでお腹を満たす。



(仏果山山頂で昼食を楽しむ登山者)



(仏果山山頂にある立派な高台)

12時20分 経ヶ岳目指し、仏果山山頂を出発

ここで二人とも地図を確認しなかったため、誤って半原に戻るコースへ進んでしまう。あまりにも下るので心配になった私が地図を見直す。やはり間違えている。経ヶ岳に行くには、今下った道を登り返さなくてはならない。Aさんに「どうしますか？」と聞くと「それはもちろん、戻りましょう！」と即答。約45分のロスである。山頂に戻る。仕切り直して再出発。

仏果山から進むとすぐに痩せ尾根が現れる。鎖も設置されている。気を付けて通過されたい。アップダウンを繰り返す。途中、革籠石山という標識が現れるも景観なし。



(仏果山山頂から経ヶ岳山に向かう道中)



(半原越から再び登りの階段)



一度舗装された道にでる。

14時05分 半原越着

ここから経ヶ岳山頂までひたすら登りになる。木道の階段がかなり続く。経石というポイントを通ると山頂社がすぐである。

14時35分 標高 633.1m 経ヶ岳山頂着

大分雲が出てきて、日差しが弱くなっている。天気によければ丹沢山系が一望できる素敵な山頂である。止まっていると体がどんどん冷えて寒いので、早々に出発。

計画では、宮ヶ瀬湖の方に下山して時間があったら温泉に入って帰ろうかと思っていたが、Aさんと一緒に朝、バスで通過した半増坊前のバス停に下山することに変更。ここからはひたすら下るのみ。

15時50分 412号線 道路に下山

「なかなか歩きごたえのある山でしたね」と私。Aさん「また登りにきます！」

一日一緒に歩いたAさんと帰りの電車でお互い自己紹介(笑)。

ここで初めてお名前を聞く。また関東周辺の山でお会いしそうな予感がする。

今日一日ありがとうございました。

(丹沢の夏はヒル対策が必須→)

- 9時10分 登山口ゲート着
- 10時15分 高取山山頂着
- 11時15分 仏果山山頂着
- 14時05分 半原越着
- 14時35分 経ヶ岳山頂着
- 15時50分 412号線道路に下山



文責:松田留美